

幼稚園教師に

のぞむもの

井藤利邦

最近私は全国、徳島県の幼稚園の先生に接する機会が多いので、その観点から思いつくまま希望を書きます。

一、保育時の教師の服装を活動的にする。

特に遊技、遊具使用の際トレパン、運動靴を着用すれば活動性に富む幼児の先頭に立って、幼児と一体となった美しい指導が展開されるでしょう。

二、戸外運動を盛んにしてほしい。

幼児は勿論教師自身が室内に籠らず戸外でマット運動、鉄棒ぐらゐは練習したいものです。

幼児は低鉄棒などやっているのですから。

三、幼児教育については、すじの通った学識を深めること。

高低は申しません。一応の見識はもってほしいと思います。指導技術は仲々よろしいです。幼児教育については自信を以て、話したり書けるようにしたものです。

四、人間的教養を高くする

幼児教育を除いたら、なんにも残らない

教師なんてつまらないです。巾の広いと言うか豊かな人間性を培ってもらいたいと思います。

五、趣味のある人であってほしい。

教育そのものが趣味などと言う人もありますが頂けません。絵、写真、文学などいくらもありましょう。何かのグループに所属しているかたは、どこか優れた高いものを持ち、保育の面にも、そのよさが出ています。

六、研修題材を毎日の保育の中に求める高踏的な理論でなく、一人の幼児の行動に、一枚の絵に求める態度が必要です。

七、工夫創造性があってほしい。

一例として絵画製作の場合、材料として既に完成近いものでなく、空缶、空瓶の利用、田舎の自然物利用、石絵など、教師の工夫創造性は大切である。遊具にしても未開拓の所があると思われる。

八、公平無私の態度

保護者の身勝手な観察もあるが、教師も感情的で皆無とは云えぬ。特に教師の性格的なもの、家庭的な原因を排除して、すべての幼児に公平でありたいと考える。

九、円満な人格をつくること。

読んで字の如し、よい家庭から生れる。よい妻、よい娘よい母であることは、暗い家族の人間関係から生じる。

一〇、教育は精神的に若さが必要。

年令の古い人に大切に、毎年幼児は新しいから、半ば自分に云いきかせる意味で。

子を失しないよう気をくばる)

3、保育者の個性を重んじ、実際の保育に關しては基本的な方針の他はまかせてくれること。

4、園長としての信念や保育に対する考え方をおしつけるのではなく、こういう考え方もあるのだという形で示してくれること。

5、保育者の質向上の為に研究の機会を与えてくれること。

6、園長をも含めて保育者同志、縦横の關係がスムーズにいくように努めてくれること。

7、仕事のことは勿論、個人的な問題でも保育者のよき相談相手であること。

三、園児に關して

1、現実の社会とそこで成長していく幼児を関連させて理解する人であること。

2、幼児のすきな人であること。

3、幼児から親しまれること。

4、つねにほほえみをもって幼児と接することのできる人であること。

5、園児一人ひとりを覚えること。

6、園児と一しよに遊ぶことができる人であること。

7、たとえ園長が事務的に忙しいか、または要務に氣をとられているようなときでも、園児から話(たとえば朝晩の挨拶)かけられたなら、すぐそれに軽く応答するだけの柔軟さがあること。